

しあわせのペンリレー No.13

～ 新たなる挑戦（セカンドステージ）～

若い頃、今では考えにくいですが、部活動の遠征でマイクロバスを運転していた。すれ違う大きな観光バスをみて、「いつか、あのバスを運転してみたい!」と思った。

そして、60歳で定年（前）退職を機に、大紀町にある滝原西村ハイヤーの門をたたき、現在は、観光バスやスクールバス、そしてタクシーに乗務している。大きなバスに乗務することは、その大きさやお客様を乗せる責務からドキドキもするが、それ以上に大きなバスを操ることにワクワクする。特に、観光バスでは狭い道路を走ることが多く緊張の連続となるが、走り終えた後の達成感と仕事の後に飲むビールがたまらない。また、車内は旅を楽しむお客様の笑顔があふれ、ハンドルを握っている私まで幸せな気分になれる。

その他に、スクールバスに乗務していると前職のことがとても懐かしく感じられるし、タクシーで高齢者を乗せていると将来の自分を想像したりする。タクシーを利用されるお客様のほとんどが1人暮らしの高齢者で、車内では天気の話から始まり会話が止まらない。行き先は病院や銀行、スーパーマーケットと様々であり、たまにコンビニに立ち寄ると「あんまん」を買ってもらったりする。いくつになっても、お駄賃をもらうのはうれしい。

セカンドステージを歩みだしたばかりだが、やはり「人とのふれあい」が楽しいと感じる。これからも、身体に気を付けて、出来るだけ長くこのステージも楽しみたいと思っている。

滝原西村ハイヤー 乗務員 高田 有治